

教養科目		社会科学部・看護学部・アニメーション学部・人間科学部					2025年度 カリキュラムマップ									
教養科目のDP(ディプロマ・ポリシー)																
自ら学ぶ力	DP1	知識・技能	豊かな教養と確かな専門知識・技能を身につけている。													
	DP2	情報の活用	目的に応じて情報を収集し、それを活用できる力を身につけている。													
	DP3	主体的な学びと論理的な思考	科学的、論理的な思考力と創造力を持ち、主体性をもって自ら学び続けることができる。													
生きぬく力	DP4	コミュニケーション・表現力	多様性を尊重し、共に生きるためのコミュニケーション能力と表現力を身につけている。													
	DP5	グローバルな視野と地域貢献活動	グローバルな視野と国際感覚を持って、地域社会で積極的に活動できる。													
	DP6	課題解決力	困難に立ち向かい、知識を活かして「知恵」とし、課題を解決して社会を生きぬく力を身につけている。													
信じられる能力を	DP7	自己効力感	知的好奇心を持ち、自ら学ぶ姿勢を身につけ、社会に対して自身の能力を発揮したいと意欲に溢れることで大学生活の中で自信をつけることができ、自らの可能性を信じてチャレンジできる。													
◎:科目の到達目標が該当のDPに直結する科目(100%) ○:科目の到達目標が該当のDPに関わる科目(70%) △:科目の到達目標が該当のDPに少し関わる科目(30%)																
授業科目 ◆は必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7			
人間力育成科目	◆ きびこく学	1	1	春	○	順正学園及び吉備国際大学、またキャンパスのある地域の歴史・文化・社会の特色や課題について多角的に学び、吉備国際大学の学生としての知的基盤を培う科目である。この科目は、吉備国際大学の教育目標である「地域創成に実践的に役立つ人材を養成する」教育への序論として位置づけられる。	◎	△	◎	△	◎	◎	◎			
	◆ SDGs概論	1	1	春	○	2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標SDGs」について、その背景や目的、実際にどのような取り組みが行われているかを学ぶ。そして、学生自らがその実現に向け、何ができるか、また何をしなければならぬかを考え、実行しようとする能力を身につける。	△	○	◎		◎	◎				
	◆ グローバルスタディーズ入門	2	1	春または秋	○	社会科学分野の基本概念を学ぶことを通じて、基本的な世界の常識を学びつつ、日本人としてのアイデンティティを確立することを目指す。具体的なイシューを題材とし履修者で議論し、問題解決型学習の実践を行なう。	○		◎		◎	◎				
	◆ 課題解決演習	2	1	秋	○	これまでに学んだ各地域の現状・課題、SDGsに関する目標・課題について、それぞれ解決策を模索することで、社会に積極的に貢献しようとする心や姿勢を養うことを到達目標とする。具体的には、グループごとに課題とするテーマを設定し、テーマに沿った情報を調べ、どのような手法であれば課題が解決へのアプローチを検討を行う。以上の能動的学習経験により、課題解決のために必要な一連のプロセスを修得する。		△	△	○	○	◎	◎			
キャリア教育科目	◆ キャリアデザインⅠ	2	1	春	○	この科目では、社会的自立と職業的自立にむけて、自分の生き方・働き方を計画(キャリアデザイン)し、実行できる人間力と社会人意識の基礎を身につけることを目標に、社会が求める人間像(自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力)について考え、自分自身を知り目標をもって実行していく力を習得する。 具体的には、合同授業で、社会人としてのキャリア形成に必要な知識等を理解し、学科単位の授業では、各学科が目指す人材像について深く学び、資格取得や卒業後の進路選択に向け、社会人となるための基礎を築く。キャリアポートフォリオを活用し、目標設定と振り返りにより卒業時を見据えた効果的な授業を行う。			◎	○		△	◎			
	◆ キャリアデザインⅡ	1	2	春	○	自身の長期的なライフプランを考え、進路選択に向けて必要な情報収集をするとともに、それを活用し職業・企業理解に必要なスキルを身につける。同時に、2年次の目標を設定し、活動記録の入力、振り返りなどキャリアポートフォリオを作成するとともに、大学生として必要なマナーや、就職活動や実習に向けての心構えなどあわせて身につける。		△	◎	○		△	◎			
	◆ キャリア実践Ⅰ	1	3	春	○	社会人として必要な自己表現力などとともに、就職活動に必要なスキルを身につけ、自身の「キャリアプラン」を実現するための方法を学ぶ。具体的には、就職先となる企業や施設の研究、また就職活動の手法(エントリーシート・履歴書、面接対策等)を就職活動の流れに沿って実践的に学ぶ。また、社会や就職活動で必要な会話術、面接、グループディスカッションの場面での自己表現力の育成も合わせて行う。実際に企業見学やインターンシップにも参加する。		○	○	○		○	◎			
	キャリア実践Ⅱ	1	3	春		「キャリア実践Ⅰ」に引き続き、就職活動に必要なスキルや能力の向上を図る。就職活動に必要なエントリーシート・履歴書の書き方、面接対策、試験に多く用いられるSPI対策、キャリアポートフォリオの就活への活用など、就職活動に必要な就職活動に実践的に役立つ内容を学び、実行する。		○	○	○		○	◎			

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7		
数理・情報活用科目	◆ 情報活用	2	1	春	○	高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要なとされる基本的なコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。	○	◎	△						
	数理・データサイエンス・AI基礎	2	1	秋		今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける。 基礎編は、数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルモデルカリキュラムで示されている、「導入(社会におけるデータ・AI利活用)」「基礎(データリテラシー)」「心得(データ・AI利活用における留意事項)」で構成される。	○	◎	△			○			
	数理・データサイエンス・AI応用	2	2	春		今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を身につける。 応用編は、数理・データサイエンス・AIリテラシーレベルモデルカリキュラムで示されている、「基礎(データリテラシー)」「選択(オプション)」で構成される。 数理・データサイエンス・AI基礎の単位取得が履修の前提である。	○	◎	△			○			
言語教育科目	外国語	◆ 英語基礎Ⅰ	2	1	春	○	高校までに学んだ基本的な重要文法、単語を復習し、英語によるコミュニケーションが図れるようになることを目指す。 「アクティブ英語Ⅰ」で学ぶ会話(コミュニケーション英語)について、文法や単語、用法をこの科目において詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎					
		◆ 英語基礎Ⅱ	2	1	秋	○	「英語基礎Ⅰ」に引き続き、高校までに学んだ基本的な重要文法、単語を復習し、英語によるコミュニケーションが図れるようになることを目指す。 「アクティブ英語Ⅱ」で学ぶ会話(コミュニケーション英語)について、文法や単語、用法をこの科目において詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎					
		◆ アクティブ英語Ⅰ	2	1	春	○	ネイティブ教員による英会話を中心とした授業で、学生が英語でのコミュニケーションの楽しさや学ぶことの意義を感じ、積極的に英語で話そうとする姿勢や基本的な英会話能力の育成を目指す。授業で取り扱った会話については、「英語基礎Ⅰ」において、文法や単語、用法を詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎	◎				
		アクティブ英語Ⅱ	2	1	秋		「アクティブ英語Ⅰ」に引き続き、ネイティブ教員による英会話を中心とした授業で、学生が英語でのコミュニケーションの楽しさや学ぶことの意義を感じ、積極的に英語で話そうとする姿勢や基本的な英会話能力の育成を目指す。授業で取り扱った会話については、「英語基礎Ⅱ」において、文法や単語、用法を詳しく学び、英語力の定着を図る。	◎		◎	◎				
		レベルアップ英語Ⅰ	2	2	春		海外留学や英語をさらに学び将来社会で役立てたいと考える学生などを対象に、英語力のレベルアップ、留学向けての支援などを旨とする科目である。TOEIC対策なども行い、実践的に役立つ英語力を育成する。			◎	◎	◎			
		レベルアップ英語Ⅱ	2	2	秋		「レベルアップ英語Ⅰ」に引き続き、海外留学や英語をさらに学び将来社会で役立てたいと考える学生などを対象に、英語力のレベルアップ、留学向けての支援などを旨とする科目である。TOEIC対策なども行い、実践的に役立つ英語力を育成する。			◎	◎	◎			
		中国語と中国文化Ⅰ	2	1	春		中国語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、中国語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。また中国語を通して、中国の社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
中国語と中国文化Ⅱ	2	1	秋		「中国語Ⅰ」に引き続き、中国語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、中国語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。また中国語を通して、中国の社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎					

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7		
言語教育科目	外国語	フランス語とフランス文化Ⅰ	2	1	春		フランス語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、フランス語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またフランス語を通して、フランスの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
		フランス語とフランス文化Ⅱ	2	1	秋		「フランス語Ⅰ」に引き続き、フランス語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、フランス語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またフランス語を通して、フランスの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
		ドイツ語とドイツ文化Ⅰ	2	1	春		ドイツ語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またドイツ語を通して、ドイツの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
		ドイツ語とドイツ文化Ⅱ	2	1	秋		「ドイツ語Ⅰ」に引き続き、ドイツ語の基礎的な文法や発音、日常的によく使われる例文などを学び、ドイツ語による初歩的なコミュニケーション技能の修得を目標とする。またドイツ語を通して、ドイツの社会、文化、歴史、慣習などの背景を学び、日本と異なる地域の文化や社会に対する理解を深める。	◎		◎		◎			
	日本語（留学生専用科目）	◇ 日本語ⅠA(文法)	2	1	春	○	日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		◇ 日本語ⅠA(読解)	2	1	春	○	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		◇ 日本語ⅠA(聴解)	2	1	春	○	日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		◇ 日本語ⅠB(文法)	2	1	秋	○	日本語能力試験N2合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		◇ 日本語ⅠB(読解)	2	1	秋	○	日本語能力試験N2合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N2レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
		◇ 日本語ⅠB(聴解)	2	1	秋	○	日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎				
* 日本語ⅡA(文法)	2	2	春		日本語能力試験N1合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N1レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎						

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	
言語教育科目	日本語（留学生専用科目）	* 日本語ⅡA(読解)	2	2	春		日本語能力試験N1合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N1レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
		* 日本語ⅡA(聴解)	2	2	春		日本語能力試験N1合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N1レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
		* 日本語ⅡB(文法)	2	2	秋		日本語能力試験N1合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。N1レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
		* 日本語ⅡB(読解)	2	2	秋		日本語能力試験N1合格を目指し、読解を中心に学ぶ。N1レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
		* 日本語ⅡB(聴解)	2	2	秋		日本語能力試験N1合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N1レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中上級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。	◎	△	◎	◎			
基礎教育科目	社会の理解	日本国憲法	2	1	春 または 秋		日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べるができることを目指す。「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。	◎		◎	○			
		経済学	2	1	春 または 秋		私たちの暮らしの中の経済の仕組みや経済活動について学び、大学生として必要とされる経済学の基礎を身につける。 経済学のすべての分野に共通する理論分野であるミクロ経済学では、個々の消費者の行動や個々の消費者の行動や企業の行動に関する分析をもとに、価格メカニズムについて分析していく。具体的には経済学の考え方、需要と供給、価格弾力性、市場の構造と価格分析、公共財と共有資源問題などに関する基礎的知識を修得する。なお、豊富な事例を取り上げ、現実経済問題に関する理解を深める。	◎		◎				
		社会学	2	1	春 または 秋		社会学は我々にとって身近な「社会」を扱う学問である。そのため、本講義では、「社会学を理解する、覚える」のではなく、「社会学を応用する力」を身につけることまでを目標とする。まず最初に基礎的な社会学の理論、社会学的な分析の方法を身につけた上で、人口、家族、地域、エスニシティ、環境、医療、福祉、産業、労働など、様々なテーマを挙げ、各事例に対して、社会学的なアプローチから考察を加える。	◎	△	◎	△	△		
	人間形成	哲学	2	1	春 または 秋		哲学の基本的な知識、哲学思想の流れをつかみ、代表的な思想家の考え方とその背景を学ぶ。哲学とかかわりの深い倫理学・宗教学についての基礎も合わせて学ぶ。 古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。	◎		◎	△			
		心理学	2	1	春 または 秋		心理学とはどんな学問かを知ることがテーマである。心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。人が生活している環境からいかに情報を取り入れ、蓄積し、利用するのか、あるいは、いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して、心理学のおもしろさに触れ、心理学の基礎的な考え方を理解する。	◎		◎	△			△
多様性の理解		2	1	春 または 秋		異文化をはじめ、人種や宗教、性別やLGBTなど、現代社会における多様性について、それぞれの現状と課題を理解し、ダイバーシティ実現のために何が必要か、また自らが何かできるかを考え、積極的に行動しようとする態度を育成する。(人権教育を含む)				◎	◎			

授業科目 ◆は必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	授業概要(素案)	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7		
基礎 教育 科目	人間 形成	文章力の基礎	2	1	春 または 秋		大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。	◎		◎	○				
		美術の見方	2	1	春 または 秋		自分なりの美術の見方を確立することをテーマとして、美術作品について広い知識を持ち、自分の言葉で語ることができる能力を身につける。毎回映像資料による対話型鑑賞を行い、先行研究として示されている各時代の作品の属性や意味、時代背景などについて学問的な検討を行う。多くの美術作品にふれ、授業で紹介される作品について、自分なりに調べ考えた疑問などについて、授業内の対話や毎回の小レポートの中で深めていく。	◎		◎	○				
		生涯スポーツ論	2	1	春 または 秋		少子高齢社会を生きる現代人にとって「健康」がもつ意味が多様化していることを踏まえ、「スポーツ」が果たす役割に着目し、「健康づくり」「健康増進」の視点から論ずる。これらを踏まえ、各年代に応じたスポーツのあり方、また生涯を通したスポーツへの親しみ方を理解した上で、生涯にわたって豊かな生活を送るための取り組みについて講義する。	◎		○	○				
		生涯スポーツ実習	1	1	春 または 秋		様々なスポーツ種目を通して、スポーツの楽しさと健康増進の効果を理解し、生涯にわたリスポーツに親しみ、健康的な生活を送ろうとする態度と知識を習得する。	△			◎				
	自然 科学	数的理解	2	1	春 または 秋		迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。	◎	◎	◎			△		
		化学	2	1	春 または 秋		基礎的な化学の知識の確認・修得に重点におき、身のまわりの現象や物質などを取り上げ授業を行う。将来の種々職業や生活に役立つ化学的な知識を修得する。	◎		◎					
		生物学	2	1	春 または 秋		生物の基礎ともいえる生態、細胞や遺伝などに加え、人の健康に深く関係する生活習慣病などの幅広い知識を習得し、生物現象を広く正確に把握できる。 地域における森や植物、河川や水生生物の学習、更に海と沿岸生物、魚類生態などの諸分野の幅広い生物生態学の知識を学ぶ。加えて生物学と医学、細胞・遺伝などの基礎生物学を学び、それらをもとに老いと生物学、ヒトの一生と健康な生活などの基礎医学の諸分野、また再生医療や環境問題などこれからの生物学に関する広範囲の知識を習得する。	◎		◎		△			
		環境科学	2	1	春 または 秋		現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題(地球温暖化、オゾン層の破壊、環境ホルモン等)が生じている。我々にとって種々のレベルでの環境状況を正しく把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、先見的な問題意識をもって対応をすることが重要である。本講義ではこれらに関連する問題をDVD映像などにより理解し、その対策について考え、地球環境を科学的に理解し論理的に思考できるようになることをテーマとする。	◎		○		△	△		

◎	35	4	39	18	12	4	6
○	3	2	2	8	1	0	0
△	2	16	4	4	3	4	1
合計	40	22	45	30	16	8	7

学科名	人間科学科	専攻名	心理学専攻	2025年度 カリキュラムマップ
-----	-------	-----	-------	------------------

心理学専攻のDP(ディプロマ・ポリシー)

本学科の課程を修め、学則に定める卒業に必要な単位を修得し、下記の力を身につけた人に対して学位を授与します。

自ら学ぶ力	DP1	知識・技能	こころと身体・行動の仕組みや働きに関する実証的な研究法を理解し、それに関する専門的な知識・技法を修得している。合わせて、心理的支援に関する理論的・技術的知識の基礎を修得している。教員免許状取得者においては、これらの心理学の知識に加え、社会科・公民科教員に必要な知識と技術を修得している。
	DP2	情報の活用	膨大な情報の中から、批判的思考態度で信頼できる情報を多面的に検索し、利用することができる。
	DP3	主体的な学びと論理的な思考	こころと身体・行動に関する問題に興味・関心を持ち、専門的知識や技術を活かして、主体的に科学的・論理的な思考に基づいて探求することができる。
生きぬく力	DP4	コミュニケーション・表現力	多様な考え方の存在を尊重しつつ、自己の考えを的確に伝えられ、他の職種の人たちとも連携・協働することができる。
	DP5	グローバルな視野と地域貢献活動	多様化と情報化の進む社会において、差別と偏見のない共生社会の構築を目指して、共感的他者理解をもとに、地域に根ざした心理的支援ができる。
	DP6	課題解決力	こころと身体・行動に関する日常的・臨床的問題に対して、科学的でかつ多面的で柔軟な分析・思考により解決することができる。また、自分自身が問題に直面したときには、適切な外的なリソースを活用して解決することができる。
信可能能力を	DP7	自己効力感	心理学専攻での学修の中で経験した達成感や、学んだ知識・技術を自分や回りの出来事に適用することで得られる自信により、自己効力感を高めることができる。
	DP8	人間科学に基づく科学的かつ柔軟な能力	人間の心理的・身体的・社会的な側面を総合的に関連づけ、社会の多様性を理解したうえで、地域社会の課題にも対応しながら、人の心と身体・行動に関する日常的・臨床的問題に対して、科学的でかつ柔軟な取り組みができる能力を修得している。

◎:科目の到達目標が該当のDPに直結する科目(100%) ○:科目の到達目標が該当のDPに関わる科目(70%) △:科目の到達目標が該当のDPに少し関わる科目(30%)

授業科目		◆は必修 ◇は選択必修	単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	授業概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
学科共通科目	◆ 人間科学概論Ⅰ		2	1	春	○	本講義では、学際領域としての人間科学の特徴を活かし、人間存在を多角的に理解できるように教授する。人間存在は「心理」「身体」「社会」といった重層的な側面をもつため、複合的な視点でとらえることが欠かせない。本講義は、多種多様な人間の捉え方を示し、人間理解に不可欠な基礎知識を学際的に学ぶ。	◎	○	◎	△	○	◎	○	◎
	◆ 人間科学概論Ⅱ		2	1	秋	○	本講義では、人間科学を構成する心理学、理学療法学、作業療法学の観点から、人間が抱える諸問題を発見し、解決するための応用的な知識と技術を教授する。人間存在は重層的な特徴をもつため、その問題解決には様々な観点からのアプローチが不可欠である。本講義では、現代社会において人間が体験する問題に焦点化し、その解決策について学ぶ。	◎	○	◎	△	○	◎	○	◎
	臨床薬理学		2	2	春		医薬品の薬理作用についての知識は医療に携わる者にとっては、必須なものである。従って、薬物の最新の薬理作用とその作用機序、臨床応用、有害作用、薬物動態等について教授する。さらに、「薬物に対する生体の反応」についての基礎的知識を身につけさせる。薬の作用と有害作用(副作用)、循環器系に作用する薬、抗生剤の抗菌スペクトルと有害作用、抗癌剤、消化性潰瘍治療薬の作用機序と臨床応用、抗うつ薬・抗精神病薬等の精神科領域の薬、糖尿病治療薬等の長期間投与薬物の作用機序、有害作用、臨床応用について学ぶ。この科目は、医療現場において実務経験のある薬剤師である教員が、その経験を活かし、実践に役立つ授業を実施する。	◎	○	△		○	△		
	公衆衛生学		1	2	秋		公衆衛生活動では、疾病予防、寿命延長及び精神的・身体的・社会的な健康の保持増進など、その目的のための様々な社会制度・社会的取り組みや技術があり、それらを学ぶ。この科目では、公衆衛生の総論的なもの、基礎的考え方を中心として専攻に関連の深い内容も加えて学習する。	◎	○	○	△	○	△		
	臨床栄養学		2	2	春		基礎栄養学として、活動のエネルギーとなる栄養素と、体の恒常性を保つための栄養素について学び、日常の食事との関連について講義する。また、身体運動と栄養の関係について講義する。さらに、スポーツ活動や健康づくりに関連する、栄養素やビタミン、ミネラル、水分摂取などについて講義する。	◎	○	△		○	△		
	一般臨床医学		1	3	秋		臨床分野で日常多く見られる各種疾患の初期診療に必要な要点を理解できるようにする。そのほか、救急救命医学、臨床薬理、臨床栄養学、近年注目されている最先端医学について講義する。	◎	○	△		○	△		
	臨床神経学		2	2	秋		神経系に関係する血管障害、変性疾患、外傷、腫瘍、感染症、中毒、機能的疾患について講義する。	◎	○	△		○	△		
	小児科学		1	2	秋		小児各期における成長と発達段階、各時期に特有な疾患について学ぶ。循環器疾患では、先天性ならびに後天性心疾患、特に川崎病、心筋症、不整脈の病態について学ぶ。消化器疾患では、先天奇形、食道・胃・小腸・大腸・直腸疾患、肝臓疾患について学ぶ。血液・造血疾患では主に貧血、白血病について学ぶ。腎臓・泌尿器疾患では、急性子宮体腎炎とネフローゼ症候群について学ぶ。神経疾患では、炎症性疾患、免疫性疾患、血管性疾患などを学ぶ。発達障害と社会生活の支援や難病についても学ぶ。	◎	○	△		○	△		
	精神医学		1	3	春		精神医学の総説的事項や個々の精神疾患の概念、成因、症状、検査、治療などを学ぶ。また精神障害者への接し方やリハビリテーションの方法についても概要を学ぶ。	◎	○	△	△	○	△		
	救急救命医学		1	3	秋		この講義の前半は応急処置の基本的な手技を身につけることを目標として行う。後半は感染症の基礎を学び、医療の現場における滅菌・消毒の知識の実際を習得し、臨床の現場に役立つ力を身につける。	◎	○	△		○	△		
	画像診断学		1	3	春		レントゲン、CT、MRI、エコーなどの医用画像を評価することは、医療においてきわめて重要で欠かすことのできないものであり、身体所見を取るうえでも念頭に置くべき基本となる情報である。古典的なレントゲン読影の基礎から最先端の検査法まで教授するとともに実際にレントゲンフィルムを手にして読影を行う。	◎	△	○					
	地域レクリエーション演習		1	1	春		本講義では「地域社会のニーズにマッチしたレクリエーション支援者としての基本的資質を身につけること」を目指して、特に中～高齢者を対象とした「健康増進」に繋がっていく内容の「レクリエーション活動の普及と推進」に軸足を置いた教育を展開する。	○	△	○	◎	◎	△	○	○
	地域マネジメント学		2	3	秋		少子高齢化社会を迎える現在では、病院のみならず地域づくりにおいても専門職の必要性が増加している。本科目では、実際の国内外での活動内容や事例を交えながら、地域での支援、他職種との連携による課題解決、地域づくりなど、専門職による地域マネジメントの方法と実際について講義する。	◎	△	○	○	◎	◎	○	◎

授業科目 ◆は必修 ◇は選択必修		単位数	配当 年次	履修期	主要授 業科目	授業概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
学科 共通科目	生活環境学	1	3	秋		本講義の前半において「福祉住環境コーディネーター2級の取得」に主軸を置いた講義を展開する。また、前半の講義では「医療／介護／福祉の制度・法律への理解」が深まるように配慮しながら講義を展開していく。後半は生活環境に関する基本的概念を踏まえると共に、福祉用具の導入や住宅改修を前提とした評価や具体的なアプローチ方法について指導する。また、住宅改修に関する実践的な思考の獲得を目指して製図方法についても教授し、レポート(製図)作成を実施する。本講義は「地域」や「在宅」に軸足を置いた講義内容であるため、受講学生には「地(知)の拠点事業」における「地域在住高齢者を対象とした健康教室の参加者」への関わりを持っていただくことも視野に入れた講義展開も実践する。	◎	△	○	○	◎	◎	○	◎
	生活支援工学	2	3	秋		地域生活支援の実践の場で必要となる福祉用具を紹介し、医療・福祉現場だけに留まらず地域で様々な弱者の困難を解決できるツールや技法を紹介する。単なる聴講のみではなく、パソコンやスマホなどの様々なデバイスのアクセシビリティを理解し、その問題点などをグループでディスカッションも行う。また自身の考えをまとめ、それぞれのスタイルで発表を行い、相互理解できる環境を作成する。	○	△		○	◎	◎		
	ヘルスプロモーション	1	3	春		健康増進、転倒やフレイルの予防といったヘルスプロモーションを実践する上で必要な、身体機能、精神機能、心理社会的な特性、そして社会的動向や制度を総合的に理解し、専門職として適切な指導や支援介入を実践できることを教授目的とする。	○	△		○	◎	◎		
	人間生活学	1	1	春		本科目では、生活(仕事、遊び、レジャー、教育、日常生活活動、手段的日常生活活動、休息、睡眠、社会参加)の仕方を工夫することで、人々が豊かで健康や幸福に過ごせるために必要な知識を学ぶ。またその効果を理解し、日常生活に取り入れ実際に体験しながら学習する。	◎	△	○	◎	○	○	◎	◎
	園芸論	2	1	春		本科目では、園芸活動が有する文化的・社会的・人類学的などの学際性豊かな特徴に加え、幼児教育から学童、成人、高齢者が行う園芸活動と身体活動(運動量)、ストレス、健康の効果に関して教授する。	◎	△	○	△	○	○	○	○
	園芸療法論	2	1	秋		日常的な生活の中では、人々が不安や緊張を経験する。園芸活動を通じて、人々の不安や緊張の緩和を促進し、豊かな人間関係の構築と生活の質の向上を目指す支援方法を学修する。また、医療・保健・福祉の臨床において、何らかの障害を持つ人々の機能回復や症状の改善や援助方法を理解し園芸療法の役割を理解する。	◎	△	○	△	○	○	○	○
	ガーデニング	2	1	秋		ガーデニング技術を身につけることにより、園芸活動の実践場面の解説や多面的な視点を学ぶ一助にする。自らが栽培に関わることの意義や有意性を感じ、健康増進の分野での園芸活動を臨床場面で実践する楽しさを理解する。	◎	△	○	○	○	○	○	○
	園芸療法実習	2	2	春		医療・保健・福祉の臨床における実践で活用することができる技法としての園芸療法技術を身につける。屋外、屋内でロールプレイを中心としたアクティブ・ラーニングを行い、対象者の情報収集、ニーズや課題から目標設定、園芸療法プログラム立案、観察方法、特性の捉え方を体験する。	○	△	◎	◎	○	○	◎	○
	人体の構造と機能及び疾病	2	2	秋		人の成長、発達、老化にはじまり、正常の人体の構造と機能について学んだうえで、主要な疾病について概説する。その他、国際生活機能分類や健康の概念、人口動態、国民の健康づくり対策、産業保健などの概略にも触れる。	◎	△	○	△	△	◎	○	△
	神経・生理心理学Ⅰ	2	1	秋		「心」が存在すると考えられている神経系、その入れ物である頭蓋と脊椎、神経系と密接な関係のある内分泌系について学習する。解剖学用語は医学系の学問を学ぶことができ、また医療系の臨床業務に従事する者の共通言語となる。将来医学系と関連した職種を希望する学生には特に有用な科目である。	◎	○	○	△		○		
	精神疾患とその治療	2	2	春		精神医療に関わる者にとって、「人の理解」「こころの理解」は不可欠です。精神の障害をもった人を理解し、精神療法や社会福祉的支援の方法について学ぶことは、精神障害のみでなく、身体障害や知的障害など他の障害者に接する際にも必要である。具体的イメージを持ちやすいようにビデオなどを活用する他、授業中に適宜症例提示を行い診断・検査法や治療法を議論するなど、精神障害への理解を深めるようにする。	◎	○	△	△	○	△		
	神経診断学	2	3	春		神経系が障害された時に見られる症候を理解し、それらの症候から神経系の障害部位を考えるための検査法(神経診断学)を学ぶ。特に神経系の病態生理、神経解剖学に基づいた系統的な神経所見の診察法、補助検査について学ぶ。	△	○	△	△	△	△	△	△
	発達心理学	2	1	春	○	様々な視点から人間の発達過程について学習する。具体的には、胎児期、乳幼児期、児童期、青年期、成人期のそれぞれにおける発達の様相や発達課題について学習する。また、各発達段階における臨床的問題についても学習し、その問題に対する心理的援助についても考察する。	◎		○		○			
	臨床心理学概論	2	2	秋	○	臨床心理学の歴史、様々な心理療法、アセスメント、精神障害、研究法などについて学ぶことがテーマである。到達目標は、臨床心理学の基本的な内容を理解し、対人支援に役立つ知見と方法を学修することが到達目標である。	◎		○			△		△
	障害者・障害児心理学	2	3	春		発達障害をはじめとするさまざまな障害の種類や特性を理解し、心理師として現場において支援する具体的な方法を学ぶ。具体的には、さまざまな障害による制約や特性、個々に対応するためのアセスメント、支援方法等について、障害ごとに理解していく。そして「障害」とは何か、その種類、症状・特性、診断基準、支援方法等の知識を習得する。	◎			○	△		△	◎
	健康・医療心理学	2	1	秋		「人の健康に対する意識、及び意識や行動(健康関連行動、生活習慣など)が健康に及ぼす影響・効果を理解する」ことが授業のテーマである。到達目標は、健康行動に関する基礎的な理論の理解と、生活習慣病の予防やストレスマネジメントについて理解できることである。	◎		○			○		
	カウンセリング演習Ⅰ	1	2	秋		講義と演習を並行して行い、心理面接の基礎理論を理解した上で、面接技法を体験的に学んでいくことがテーマである。事例検討やロールプレイングを通して、心理支援を要する者等に対するコミュニケーション、心理面接技法の基本を修得することが到達目標である。	◎			◎			○	

授業科目 ◆は必修 ◇は選択必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	授業概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
学科共通科目	カウンセリング演習Ⅱ	1	3	春		心理支援を要する者やその関係者のニーズを把握し、心理的支援をおこなっていくための基本的知識やスキルについて、ロールプレイや事例検討を通して修得する。	○		○	◎		○	○	○
	外書講読	2	4	春		心理学の英語文献を読み、理解した内容を発表し、ディスカッションすることがテーマである。心理学分野の英語文献を読むことで、新たな知識や視点を広く得ることが到達目標である。	◎			○				
	コミュニティ心理学	2	3	春		コミュニティ心理学は、地域臨床の文脈で実践されてきた経緯がある、またそれを体系化する理論が数多く提示されているが、地域臨床だけでなく様々な実践的事例を概観する。知識を深めていくとともに、集団ロールプレイング等により自ら体験することも取り入れながらコミュニティ心理学の知識と技法を検討・理解し、心理専門家としての資質を高めていく。	◎			◎				△
	◆ 基礎演習Ⅰ	2	1	春	○	基礎演習Ⅰは、1年次春学期の科目である。これから4年間「大学生」として学んでいく上で、4年後の就職活動も視野に入れながら、有意義な知的生活を送るために必要となる、教養及び技能を紹介していく。	○	△	◎	◎			○	
	◆ 基礎演習Ⅱ	2	1	秋	○	自分自身を理解するために、ワークショップやエクササイズを中心とした演習を行う。その後、さらに自己理解を深め、自己を延ばすためにはどう考えるかという行動が必要かについて、受講生同士で話し合う。加えて、学問へのアプローチ方法について、教員から指導する。	◎	△	○	◎			○	
	◆ 基礎演習Ⅲ	2	2	春	○	専門分野における総合的な課題探究能力・主体的判断能力の育成を目指して、教養教育と専門教育の有機的連携を考察する。教員から与えられる専門情報に関して、受容から獲得へ、学修から研究へと、理解を深め、専門的知識を演習グループの共通認識へと高めていく。	◎	△	○	◎			○	
	◆ 基礎演習Ⅳ	2	2	秋	○	資料や文献を検索し、体験と運動させて、情報の専門的解釈および記録の方法を学修する。学習内容を、グループ研究の形で共同研究発表や討議などを通して演習グループの共有財産に高める。知識に対する自己自身の姿勢を社会との関連で理解し、将来的自己の専門家としての主体性(モチベーションとアイデンティティ)と活動内容を考察する。	◎	○	△	◎		○	○	
心理専門科目	◇ 心理学概論Ⅰ	2	1	春	○	行動(心の働き)と環境との関わり、つまりヒトが環境に「適応する」とはどのようなことなのか、について、感覚、知覚、記憶、学習の観点から理解する。人間の行動(心の働き)には、環境が大きな影響を与える。そのため、学生は人間がどのように外界からの情報を取り入れ、適応行動を行っていくのかについての理解を深めることができる。	◎							
	◇ 心理学概論Ⅱ	2	1	秋	○	多様な心理学分野の中で、時間の経過にともなって発達・退行していく心理過程、また、心理社会的枠組みの拡がりともなって拡充・拡散していく心理構造を理解できるようになる。適応・偽擬適応・不適応の過程を個人差の観点から捉えるのがテーマである。発達、personality 構造、適応行動の阻止事態等についての授業内容の6割以上を理解することが到達目標である。	◎		○					
	◇ 心理学研究法Ⅰ	2	2	春	○	心理学研究を行う際の理念及び操作がテーマである。参加学生は、先行研究の概観と問題点の発見・その問題に見合ったデータ収集・データ分析・結果の表示・考察等々の方法論一般を理解できる。心理学的な研究を進めるに際して、どのような操作をすべきかが理解できるようになることが、到達目標である。	◎		◎					
	◇ 心理学研究法Ⅱ	2	2	秋	○	「心理学の研究法を学ぶ」をテーマとして、特に面接法に関する知識を身に付ける。支援・介入的実践活動の理論的基盤である臨床心理学的研究の実際と手法を学び、卒論レベルの研究において適用可能な能力を身に付ける。また、心理学の研究についての基礎的な内容を学習し、心理学実験Ⅰ・Ⅱのレポート作成や卒業論文の作成に活かせる知識を身に付ける。	◎		◎					
	◇ 心理学統計法Ⅰ	2	2	春	○	テーマは、こころと行動の仕組みや働きを数量的に把握し、そのデータを統計的分析により理解できるようになることである。到達目標は、心理学的研究によって得られたデータを統計的に分析し、説明できることである。	◎	◎	○				△	
	◇ 心理学統計法Ⅱ	2	2	秋	○	テーマは、こころと行動の仕組みや働きを数量的に把握し、そのデータを統計的分析により理解できるようになることである。到達目標は、心理学的研究によって得られたデータを統計的に分析し、説明できるようになることである。	◎	◎	○					△
	◇ 心理学実験Ⅰ	1	2	春	○	テーマは、心的活動を客観的に捉える実験的方法の修得することである。実験計画(変数の設定、条件操作の方法等)の立て方、および実験器具の操作法を修得し、得られた量的、質的データを統計的に処理することができるようになるとともに、行った実験の目的、方法、結果、そしてそれについての考察をレポートにまとめることができるようになることが到達目標である。	◎		◎			◎		
	◇ 心理学実験Ⅱ	1	2	秋	○	テーマは、実験計画(変数の設定、条件操作の方法等)の立て方、および実験器具の操作法を修得することである。得られた量的、質的データを統計的に処理することができるようになるとともに、行った実験の目的、方法、結果、そしてそれについての考察をレポートにまとめることができるようになることが到達目標である。	◎		◎			◎		
	◇ 医学概論Ⅰ	2	2	春	○	医学一般に関する知識を提供する。そのためには公衆衛生学に用いられる、疫学的方法解析法を習得する。さらにSDGsに関係する項目について、医学的見地から考察を加え学んでいく。具体的には我々の環境について、化学的、物理学的見地から習得する。さらに感染症、循環器、呼吸器、消火器に関する一般的知識を学び、健康な生活を送れる、基礎を習得する。興味あるSDGsの題材についてグループ学習を行い、発表する。	○	◎	○	○	◎	○	○	◎
	◇ 医学概論Ⅱ	2	2	秋	○	医学的知識が応用されている社会生活について学ぶ。高齢者の保健、地域保健行政、母子保健、学校保健、産業保健を学び、我々の社会の健康が維持されているシステムを学ぶ。さらにJICAから特別講師を招聘し、世界の社会における問題点を学ぶ。興味あるSDGsの題材についてグループ学習を行い、発表する。	○	◎	○	○	◎	○	○	◎
	人体の生理的機能	2	2	春		本講では、人の心を理解する上で重要となる人体についての知識と理解を幅広く深められるよう講義する。神経系の機能を知るとともに、心理学を学ぶ上で重要である感覚機能の神経生理学的基礎についての理解を深める。	◎		◎					

授業科目 ◆は必修 ◇は選択必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	授業概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
心理専門科目	知覚・認知心理学	2	2	秋	○	大脳における情報処理過程(知覚、注意、表象、記憶、言語、問題解決、推論など)の認知モデルとその検証実験について理解する。大脳における情報処理過程の認知モデルを理解するとともに、認知処理を行うためのモデル構築のための実験パラダイムについて理解を深める。本講では、これまでブラックボックスという表現で処理されていた人間内部の問題、特に、記憶、情報の検索、イメージと空間の認知について、実験に基づく認知モデルを概観するとともに、日常生活におけるさまざまな認知活動について講義する。	◎		◎					
	学習・言語心理学	2	2	春	○	テーマは、学習による人の行動の科学的理論を理解することである。心理学の基礎として、学習・行動理論の代表的な理論と応用方法を理解し、自らの必要性に応じて活用できるようになることが到達目標である。	○		○			◎	◎	
	感情・人格心理学Ⅰ	2	1	秋	○	テーマは、日常的に使われている、「性格(人格)」という心理学概念の利点と欠点について理解すること。性格(人格)の心理学的概念を理解し、自らの必要性に応じて知識を活用できるようになることが到達目標である。	◎				△	△	△	△
	感情・人格心理学Ⅱ	2	2	春	○	「感情心理学の基礎を習得する」をテーマとし、感情の生理的基盤および古典的理論、感情が行動に及ぼす影響、発達や病理との関係性を学ぶ。感情の生起、感情の機能、感情と健康との関係について説明できるようになることを到達目標とする。	◎							
	神経・生理心理学Ⅱ	2	3	秋		本講義では、具体的イメージを持ちやすいように授業中に脳の解剖モデルのスケッチや、実際の脳画像の提示を行う。局所脳機能の障害によって導かれる病態を具体的に提示して、中枢神経機能への理解を深めるようにする。到達目標は中枢神経のマクロ解剖(頭部MRI、CTの読影を含む)を理解できる。中枢神経の代表的な機能について、部位ごとに理解できるようになることである。	◎	○	○					
	社会・集団・家族心理学Ⅰ	2	1	春	○	人と人の関係に基づく意識・行動について、社会的・文化的枠組みから理解することをテーマとする。社会心理学の理論や術語につて理解できる。「中学校・社会・教員免許」、「高等学校・公民・教員免許」の取得の基礎となる社会心理学的所見を理解することができる。授業で扱う社会・集団に関する知識の理解度が、授業内容の6割以上に達することが、到達目標である。	◎		○					
	社会・集団・家族心理学Ⅱ	2	3	秋		家族システムや対人間の相互作用から現象を捉える視点を養う。家族や集団に起こりうるさまざまな問題をシステムや相互作用という視点から理解できることを到達目標とする。	◎		○					
	心理的アセスメント	2	2	秋		クライアントの見立てや適切な援助方法の選択・援助過程の評価等に用いる「心理的アセスメント」の基礎知識と方法を学ぶ。アセスメントとして用いる面接・心理検査について、講義だけでなく、実際の心理検査を自身が体験する演習も行いながら、各検査の概要や実施方法を理解していく。到達目標は、アセスメントのための面接、行動観察、種々の心理検査について、知識だけでなく、実際の体験を通して理解することである。	◎			○	△		△	
	心理学的支援法	2	2	春		多種多様な心理療法・心理学的支援法の理論と実際について、基礎的な知識を学ぶ。特に、心理療法の代表的な立場である、精神分析、クライアント中心療法、行動療法を主に取り上げて概観し、その他の心理療法についても講義だけでなく、グループ演習や心理療法体験も行い、実際の心理療法を体感しながら理解を深めていく。さまざまな理論から展開されている心理療法について、基礎となる理論や背景、心理療法の具体的な方法を知識として習得することを到達目標とする。	◎			○	△		△	△
	福祉心理学	2	3	秋		福祉心理学では、福祉分野における歴史と現状、福祉対象者への様々な制度や支援について学習し、心理支援の必要性とあり方について理解を深めることをテーマとしている。到達目標は、福祉対象者や対象者を支援する人々への心理支援の必要性と支援の実際について理解することである。	◎			○	○			△
	教育・学校心理学	2	3	春		学校教育場面における問題行動とその対応法をテーマとする。テーマに関する調査資料や論文を読み取る力を身につけるとともに、エビデンスに基づいた対応法を知ることの到達目標とする。	◎	○					○	
	司法・犯罪心理学	2	2	春		講義のテーマ:犯罪や非行の実態、犯罪者及び被害者の心理過程を学ぶ。到達目標:犯罪心理学の基本的な知識を修得し、犯罪の未然防止や犯罪被害者への支援の取組について知見を身につける。	◎	○				△		
	産業・組織心理学	2	2	秋		産業心理学は産業場面における人間の心理や行動を科学的視点から研究する学問である。本講義では、産業心理学のこれまでの研究において得られた理論や成果を理解し考察を深めることを目標とする。また個人と組織間の相互作用の中で生まれる「こころの働き」に重点をおき、人々が幸福に働くことに重要な産業心理学の知識、知見を養うことを目指す。	◎		○					
	関係行政論	2	4	春		公認心理師として職務を遂行するにあたり、必要となる施策や法律、制度、そしてその基盤となる考え方について理解を深める。そのために人々の活動の基盤となる法律や制度、仕組みやルール、取り組みなどの歴史的経緯を理解し、公認心理師の職域5分野について、それぞれの法律や制度を把握し、具体的な役割を認識できるようになることが到達目標である。	◎	△	△		○			○
	公認心理師の職責	2	4	春		テーマは、心理専門職の国家資格である公認心理師について、職務上果たすべき責務について理解することである。そのために心理専門職に必要な技能、法的義務と倫理を理解し、心理支援における安全の確保、及び情報管理の留意点を身につける。また、職責を果たすために多職種連携が果たす意義についても認識できるようになることが到達目標である。	◎	○		○				○
	生涯発達心理学	2	1	秋		本講は、人間の様々な認知機能を理解する上での基礎となる心理学を土台にし、特に、ヒトの発達の原理とともにその過程の法則性、機能および多様性について学び理解することができる。胎児期から老年期までの各期における様々な機能の発達について講義する。それぞれの時期で重要となる機能に即した心理学的側面を理解することにより、科学的客観的根拠に基づいた発達心理学視点で生涯を概観するものである。	◎		◎					
	社会福祉原論	2	1	秋		心理学を学ぶ学生が、将来、福祉分野で活躍する際に必要な社会福祉の知識の獲得を目的として講義を行う。内容としては、心理専門職と福祉専門職の連携・協働に必要な知識が中心となる。例としては、社会福祉領域の生活問題への援助が心理的な機能障害の改善に果たす役割をあげることができる。到達目標としては、①社会福祉学の知識を困難を抱えた人への援助で活用できること。②心理学と社会福祉学の関連性が理解できること。③心理専門職と福祉専門職の連携協働のあり方について理解できること、をあげることができる。	○	○	◎	○	○	◎	◎	◎

授業科目 ◆は必修 ◇は選択必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	授業概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
心理専門科目	心理学史	2	2	秋	○	19世紀に哲学から独立した心理学の発展の経過をたどり、多様な心理学の根幹を理解するのがテーマである。心理学の成立に貢献してきた人物、方法論、科学観などの知識を俯瞰的にとらえることができる。現代心理学に至る歴史的経過に関する授業内容の6割以上を理解することが、この科目の到達目標である。	◎		○					
	臨床の倫理	2	3	秋		テーマは、教育・医療・産業等における心理臨床現場における例題を通して、倫理を調べ学習と討論、考察により、自分なりの視点を持てるようになることである。臨床現場(教育・医療・産業等)は治療者とクライアント、両者を取り巻く人間関係の上に成り立つ場であるため、守秘、インフォームドコンセント等において治療者の倫理が問われる。学生は、適切なアセスメントや支援が行われるためのクライアント理解のあり方、障害に対する一般的心理反応等について学習し、それらに対する対応を理解・修得できることが到達目標である。		◎	△	◎	○	△	△	○
	比較心理学	2	3	春		ヒトと他の動物の認知行動の比較を通して、「こころ」の多様性を知り、ヒトの「こころ」について理解を深める。様々な動物の(認知)行動についての研究法を知り、ヒトに特異的と考えられている能力を他の動物との比較の中で捕らえ直すことができることが到達目標である。	◎		○	△				
	家庭支援論	2	3	春		テーマは、家庭支援の意義とその方法を学ぶことである。到達目標としては次の通りである。1. 学生が、子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。3. 子育て家庭に対する支援の体制について理解する。4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。	△	○	○	◎	◎	○	○	◎
	心理尺度構成法Ⅰ	1	3	春		「尺度構成の手法について理解する」をテーマとして、態度等の主観的データを客観性、再現性のある手法で得るための測定法、得られた測定データに対する処理方法を体得する。質問紙法の作成方法や統計的手法について説明できるようになることを到達目標とする。	◎		◎			○		
	心理尺度構成法Ⅱ	1	3	秋		「尺度構成の原理と手続きについて理解する」をテーマとして、態度等の心理尺度の作成を通して、その原理と手続きを習得する。尺度構成の手続きについて説明できるようになることを到達目標とする。	◎		◎			○		
	心理演習	1	3	秋		テーマは、公認心理師に必要な知識と技能(①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接・地域支援)について、心理検査や心理面接等の体験を通して、学修することである。到達目標は、①コミュニケーション技術、②心理検査のロールプレイング、③心理面接・地域支援の基本技術、について理解することである。	○	○	○	○		○	○	
	心理実習Ⅰ	1	3	春		保健医療、福祉、教育、司法犯罪、産業労働、の5分野における見学等による実習を行いながら、(ア)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、(イ)多職種連携及び地域連携、(ウ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務、について理解する。実習生としての基本的な態度を身につけるとともに、上記の(ア)(イ)(ウ)の基礎を理解することを到達目標とする。	◎	○		○				△
	心理実習Ⅱ	1	3	秋		保健医療、福祉、教育、司法犯罪、産業労働、の5分野における見学等による実習を行いながら、(ア)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、(イ)多職種連携及び地域連携、(ウ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務、について理解する。実習生としての基本的な態度とともに、上記の(ア)(イ)(ウ)についてより深く理解することを到達目標とする。	◎	○		○				△
	心理検査演習	1	3	春		テーマは、代表的な心理検査を習得することを通して、心理アセスメントの基本を理解することである。到達目標は、①発達検査の実施や解釈が一通りできる。②投影法等を査定する質問紙の実施や解釈ができる、ことである。	◎		◎			△	△	△
	◇卒業研究演習Ⅰ	2	3	春	○	卒業論文の作成への第一ステップであり、各ゼミ生の関心に沿った心理学的問題をゼミ参加者相互の議論を通して明確化していくことがテーマである。心理学研究の基礎を再確認するとともに、ゼミ生自身自身が興味を持っている領域の心理学研究をある程度絞り込み、関連した論文を検索し、精読し、さらにそれを紹介できるようになることを到達目標とする。	◎	○	◎	○		◎	△	
	◇卒業研究演習Ⅱ	2	3	秋	○	関心のあるテーマについての先行研究の発表を通して、研究論文の読み方や書き方、研究方法や統計的手法の学習をおこなう。心理学的問題の所在、研究の目的・意義、方法の工夫、先行研究との関連まで進めることを到達目標とする。	◎	○	◎	○		◎	△	
	◇卒業研究演習Ⅲ	2	4	春	○	本講では、心理学演習Ⅰ・Ⅱに続き、関連研究で用いられている調査の実施方法や統計的処理の方法を学習することがテーマである。研究計画および調査結果についてのディスカッションをおこなう。到達目標は、テーマに沿った研究を実施し、統計的処理をおこなえるようになることである。	◎	○	◎	○		◎	△	
	◇卒業研究演習Ⅳ	2	4	秋	○	到達目標は、各自の研究テーマに沿った形で得られたデータを整理・分析し、期限内に卒業論文を完成・提出することと、その後の卒論発表のための資料の作成等の準備を終えることである。	◎	○	◎	○		◎	△	
	◇卒業研究	2	4	秋	○	到達目標は、科学的な研究法に基づいた実験的研究の実施と、心理学科4年間の集大成としての卒業論文の作成、およびその内容を分かりやす発表・伝達できることである。	◎	○	◎	○		◎	△	
教職関連科目	日本史	2	2	秋		日本の歴史について、古代から現代までグローバルな講義で講義をし、演習も取り入れる。到達目標は次の通りである。1. 日本の歴史の大きな流れと時代の変化について理解することができる。2. 日本の歴史が、世界の歴史の影響を受けながらあることを理解することができる。3. 地域の歴史を学ぶことで、日本の歴史に関連付けた理解ができる。4. 中学校社会での教授を想定し、基礎的な事項の理解と教材化に向けた視点をもつことができる。	◎	○	△		△			
	東洋史	2	2	秋		古代から現代の中国を中心とした東洋の歴史の概要を講義する。到達目標は次の通りである。1. 東洋史の大きな流れや他地域との関連など、グローバルに把握することができる。2. 日本の歴史と東洋の歴史の密接な関係について、具体的な事象を通して理解することができる。3. 中学校社会での教授をイメージし、日本史の背景として東洋の歴史について教材化の視点をもつことができる。	◎	○	△		△			
	西洋史	2	2	春		古代ギリシア世界～現代に至る西洋の歴史にグローバルな視点で学ぶ。到達目標は次の通りである。1. 西洋の歴史を他の地域や日本との歴史と関係付けて、理解することができる。2. 中学校社会での教授を想定し、日本史の背景として西洋の歴史がどのような影響を与えたのか理解することができる。	◎	○	△		△			

授業科目 ◆は必修 ◇は選択必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	授業概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
教職関連科目	地理学概論	2	2	秋		地理学の基礎的知識についてグローバルな視点で講義し、理解を深める。到達目標は次の通りである。1. 世界の気候について、様々な地域の理解と人々に暮らしについて理解することができる。2. 日本の産業とその変化について、知識と理解を深めることができる。3. 中学校社会地理分野での教授をイメージし、授業づくりに生かす視点をもつことができる。	◎	○	△		△			
	地誌学	2	3	春		地誌学の概要と日本及び世界の主要地域の地誌を学ぶ。到達目標は次の通りである。1. グローバルな視点により、地理的事象を分析・探求することができる。2. 様々な地域の特徴と諸問題、地域間のつながりについて理解することができる。3. 中学校社会科教員として授業ができる知識・技能を身に付けることができる。	◎	○	△		△			
	法学	2	1	秋		本講義(法律の基礎知識、憲法の構成と基本原理、民法学の基礎知識、家族法の基礎知識、契約一般の基礎知識、訪問販売・割賦販売等の基礎知識)を通して、生活上の諸問題や社会の動向に関して興味関心を持ち、何かがたどしいのかという価値判断が求められる局面において、自ら考えて選ぶリーガル・マインドを獲得することを到達目標とする。	○	○	◎	◎	○	◎	◎	◎
	政治学	2	1	春		大学で政治の諸問題を学ぶ意義は、それを単なる評論ではなく、専門的な概念を用いた理論的観点を通じて学ぶことである。しかし、政治に対する考え方は極めて多意であり、それらを説明する概念や接近の仕組みも学者によって異なる。そのため受講生には、様々な政治関連の問題について、自らの立場で自分の見解や判断力を持つことを期待する。この講義により、大衆民主主義における政治的な出来事や理解、すなわちその背景と要因、そして、こうした相互関連性について知ることができ、現代社会の一市民としての教養と姿勢が習得できる。	◎	○	○		○	○		
	宗教学	2	1	春		テーマは「世界宗教史」である。学生は講義を通じて、現生人類の誕生から新石器時代、文明の誕生を経て、ユーラシア西部や日本にどのような宗教が存在してきたか、そしてそれらが現代の我々にどのような影響を及ぼしているのかを知る。このことを通じ学生は、世界の多様な文化を理解することができる。そして現代において宗教に対し健全な態度を確立することができるようになる。これらが到達目標である。		○			○			○
	社会科・地歴科教育法Ⅰ	2	2	春		社会の様々な事象に関心を持ち、それを多角的・多面的に考察、判断できる中学生を育てるため、教科の特性を理解した上で探究心を常に持ち、さらに、効果的な授業、適切な評価ができる実践力にも優れた教師を目指す。教師という仕事に不可欠な授業計画作成、教材研究、テスト問題作成といった実践的な実習、演習さらには模擬授業によって教師になるための態度、態度さらには自信を身につけていくことが到達目標である。	◎		○			○	○	
	社会科・地歴科教育法Ⅱ	2	2	秋		社会の様々な事象に関心を持ち、それを多角的・多面的に考察、判断できる中学生を育てるため、教科の特性を理解した上で探究心を常に持ち、さらに、効果的な授業、適切な評価ができる実践力にも優れた教師を目指す。教師という仕事に不可欠な授業計画作成、教材研究、テスト問題作成といった実践的な実習、演習さらには模擬授業によって教師になるための態度、態度さらには自信を身につけていくことが到達目標である。	◎		○			○	○	
	社会科・公民科教育法Ⅰ	2	2	春		社会事象に関心を持ち、的確な判断や行動ができる生徒を育てるため、自らも深く思考し判断できるとともに、効果的な授業の創造、適切な評価ができる実践力に優れた教師を目指す。高校の公民教科の特性やねらいを理解した上で、適切な指導計画作成・教材研究、テスト問題作成、指導案作成、そして模擬授業を行い、実践力を身につけ、教師になることの自信を深めることが到達目標である。	◎		○			○	○	△
	社会科・公民科教育法Ⅱ	2	2	秋		社会の様々な事象に関心を持ち、それを多角的・多面的に考察、判断できる中学生を育てるため、教科の特性を理解した上で探究心を常に持ち、さらに、効果的な授業、適切な評価ができる実践力にも優れた教師を目指す。教師という仕事に不可欠な授業計画作成、教材研究、テスト問題作成といった実践的な実習、演習さらには模擬授業によって教師になるための態度、態度さらには自信を身につけていくことが到達目標である。	◎		○			○	○	△
	教育原論	2	1	秋		授業のテーマは、教育の思想及び制度の歴史を学ぶことにより、教育はどのような要因によって成り立ち、左右されてきたかを理解し、その知識・理解をもとに今後の教育の在り方について考察する力量を身に着けることである。到達目標は次の通りである。1. 教育の基本概念を理解し、適切に用いることができるようになる2. 代表的な教育思想家の学習論・教育思想・社会観・子ども観を理解する3. 近代公教育(学校)をはじめとする主要な教育制度の成立および変遷を理解する4. 家庭、社会における教育について理解し、それをもとに学校教育の役割を理解する5. 上記の学習を通じて教育の本質について理解し、今後の教育制度(学校など)の役割について自身の意見を持つ。	◎		○	○		△	○	
	教職論	2	1	春		教職についての基礎的な知識(教職の歴史と社会的使命、教員の職務、教員養成と研修、服務規程、「チームとしての学校」の一員としての役割等)について理解するとともに、教員としての自らの適性について考えることを目標とする。	○		○	◎			△	
	教育行政学	2	2	春		現在日本の教育制度の仕組み、意義、基本原理を理解するとともに教育制度の一部である学校の経営やその制度的背景について理解する。そのうえで、社会や子どもを取り巻く課題に教育制度・学校経営がどの程度対応できているのかを考え、将来の教育制度・学校経営のあるべき姿を考察することが授業のテーマである。到達目標は次の通りである。1. 教育行政・公教育の原理、理念、作用及び仕組みを理解する。2. 学校、教育機関の目的を理解し、その目標をどのように達成しようとしているか理解する。3. 学校経営の組織体制及びマネジメント手法について理解する。4. 子どもたちをめぐる問題に対する制度的・経営的対応を理解する。5. 現在の教育改革及び行財政改革の基本的な方向を理解する6. 子どもや社会の現状、行財政改革の現状などの正確な理解をもとに今後の教育行政・学校経営のあるべき姿について自身の意見を提示できるようにする。	◎		○			△	△	△
	教育心理学	2	2	春	○	この講義では、教育領域における心理学的理論と知識、および教育領域に適用可能な心理学的手法を学ぶ。到達目標は次の通りである。1. 教育心理学の重要性を理解し、教育領域に有用な心理学的知識とその活用を学ぶ。2. 児童生徒の心の発達プロセス理解と、それに適合した、あるいは促進させる教育心理学的アプローチのあり方を身につける。3. 児童生徒の示す心理的問題や、教育上特別な支援が必要な児童生徒の心理学的理解と、具体的な支援に寄与しうる教育心理学的知識を身につける。	◎		○		△	○	△	
	特別支援教育	1	2	春		テーマは特別支援教育の対象であるそれぞれの障害の特性と心理的特徴について理解し、指導内容と具体的な方法を学ぶことである。発達障害をはじめとする特別な支援を必要とする幼児・児童および生徒の障害特性を理解し、適切な指導方法・支援方法に関する知識を身につけることを目標とする。さらに、特別支援教育の理念とシステムを学び、保護者や他の教員、関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を習得する。	◎	○			○	◎		△
	教育課程論	1	2	春		教育課程の編成と実施などについての基礎的・基本的な知識を修得し、学校や地域の特性と教師の創意・工夫を生かした魅力ある教育課程を編成するための方略について理解する、また、編成した教育課程を実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルについて理解することを目標とする。	○		○	◎		△		

授業科目 ◆は必修 ◇は選択必修		単位数	配当年次	履修期	主要授業科目	授業概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7	DP8
教職関連科目	道徳教育の理論と方法	2	3	春		授業では、各自のテーマを決め、パワーポイント資料を作成して発表、グループワーク、模擬授業等に取り組む。到達目標は次の通りである。1)基礎的知識として、道徳教育の歴史、発達理論、役割と意義を理解する。2)道徳の読み物資料の分析の仕方、指導案の書き方を学修し、指導案を作成することができる。3)作成した指導案を基に模擬授業を実施する。4)道徳科の評価について考え方を理解することができる。			◎	○		△	△	
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2	2	秋		授業では、グループワークを取入れたり、単元のテーマを決め、単元計画、学習指導案を作成したりする。到達目標は次の通りである。1. 特別活動・総合的な学習の時間の意義、目標、特徴などについて理解する。2. 特別活動の内容を理解し、年間計画、学習指導案を作成することができる。3. 総合的な学習の時間の課題を決めて単元計画を作成し、その強みと探求の過程について説明することができる。4. 特別活動・総合的な学習の時間の評価の考え方を理解することができる。			○	△		◎	△	◎
	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)	2	3	春		情報通信技術を効果的に活用した学習指導や、児童生徒に情報活用能力(情報モラル含む)を育成するための基礎的な知識や技能を身に付ける。具体的には次のとおりである。1. 情報通信技術を効果的に活用した基礎的な指導法を身に付けている。2. 児童生徒が情報通信機器を活用する上で、基本的な操作の指導を身に付けている。3. 個別な学びと協働的な学びの実現や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の必要性を理解している。4. 特別な支援を必要とする児童生徒への情報通信技術の必要性と留意点を理解している。5. 校務システムの活用例や情報セキュリティの重要性について理解している。		◎		○		△	△	○
	生徒・進路指導論	2	3	秋		テーマは、生徒指導、進路指導及びキャリア教育の意義や原理を学び学校組織の一員として生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技術や素養を身に付けることである。到達目標は次の通りである。1. 生徒指導の意義や原理を理解することができる。2. すべての生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解することができる。3. 生徒の抱える主な生徒指導上の課題の形態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解することができる。4. 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解することができる。5. すべての生徒を対象としたキャリア教育の考え方や指導の在り方を理解することができる。6. 生徒が抱える個別のキャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方や在り方を理解することができる。			△	◎		○	△	○
	教育相談の基礎	2	1	秋		学校における教育相談では、児童生徒への個別相談に加えて、学級集団や保護者への対応をバランスよく進めることが求められる。そして、担任が一人で抱え込むのではなく、チーム学校として他の教員やスクールカウンセラー等との連携も必須である。この授業では、学校における不適応や問題行動等について学ぶとともに、予防・開発的教育相談について理解する。	◎		○	○				△
	教育実習指導	1	3	秋		「教育実習の準備と教職意識の明確化」をテーマとして、模擬授業の実践などを通して、教育実習に最低限必要な知識・技術の習得と確認、および、自分自身の問題点の確認と克服を到達目標とする。	◎	△	○	○				△
	教育実習	4	4	春		テーマは「学校における教育実習」であり、到達目標は、教師としての指導力の基礎となる実践的知識・技術の習得である。	◎			○		○	○	△
	教職実践演習(中・高)	2	4	秋		教師として必要な知識、技能の補完がテーマであり、下記の活動を通して、教師らしくなることが到達目標である。1. 教育実習を振り返り、総括するとともに、教師として必要な資質能力、自分に不足している資質能力等について討議・検討する。2. 学校教育の諸活動のあり方について実践的に学ぶ。3. 教科の指導に必要な知識・技能などを見直し、力量向上のための取り組みを検討する。			○	○		◎		○
	介護等体験の研究	1	2	秋		介護等体験の意義・目的の理解と、体験施設の概要や活動内容を把握すること、あわせて教職意識の明確化を図ることを目標とする。様々な特別支援学校の先生や福祉施設の方に、それぞれの学校や施設の概要やそこの介護等体験における注意事項等を講義していただく。	◎							